

江戶理大系圖

下



淨瑠璃大景圖卷之下

竹本筆太夫小鷹爲羽考
近松狂言堂春翠子訂

三絃家景譜

絃曲 惣祖 瀧野檢校

長哥 端風 元祖 虎澤檢校

唱哥 絃祖 柳川檢校
加賀都改
大坂の産

野沢藤五郎

京

野沢喜八

三代目
本名改

野沢正五郎

京四條

庄五郎

時

野沢才二

是より下後五郎門人

野沢才吉

野沢才造

野沢吉三郎

是より下門人

野沢吉兵衛

二代目
吉兵衛改

野沢庄次郎

是より下二代目吉兵衛門人
吉兵衛改

野沢吉弥

吉兵衛改

野沢吉之助

鶴澤友次郎

是より下初代友次郎門人
二代目

鶴澤寛次

士

鶴沢文藏

文藏建と云

鶴沢名八

鶴沢市太郎

伊勢

鶴沢蟻

鳳

三改
江戸

鶴沢蟻

鳳

三改
二代目

雀沢三二

喜次郎改

雀沢蟻

鳳

伊勢改
後江戸播磨と改

雀沢伊左門

喜毛牌文化年中花沢氏と改む
以後花沢伊左と云

雀沢市太郎

花沢順次改

雀沢紋左門

花沢平五郎

伊勢

花沢松定

花沢雀三郎

京

雀沢伊左門

江戸

花沢咲次

天秤屋
市左衛門人

花沢咲三郎

是より天秤屋咲次門人

花沢咲助

花沢駒七

崔沢名八

初代名八門人
理造改

崔沢文藏

是より以下初代文藏門人
京伊代改おやま文藏といふ

崔沢松雨齋

森多改

崔沢又造

崔沢清七

崔沢仲助

崔沢龜助

是より仲助門人

崔沢仲助

江戸仲造改

崔沢新藏

是より字初代後士門人
上町

崔沢文藏

付吉改

崔沢清七

勝治帛改
二代目

崔沢弥三郎

崔沢蟻鳳

後吉改勝造又改

崔沢勇造

崔沢名八

崔沢傳吉

崔沢燕三ざ

崔沢仙藏

崔沢庄次郎

是より傳吉門人

崔沢豊吉

三味線来由 説

夫三味線も琉球國の樂器蛇皮線と換へ
京都の琵琶琴乃細工入龜屋石村吉左門
始て是を造る角沢檢校是を以て
小野於通作の淨瑠璃物語と云ふ始む
されば京都及び浪老の三絃細工入
石村氏と名乗る石村吉左門の氏と
取用せらるなり

抑三味線の丈其始ハ三尺なり是天地人の
三才を表せり○掉の長二尺余ハ陰陽の
二氣と象たり海老尾の五寸ハ五星の準



但一當時の三絃ハ
古の制と少し異なり
惣ハ三尺一寸五分
海老尾五寸二分
掉長二尺五分
胴幅一寸長一寸六分
天手
三寸五分
たり

○胴の周六寸四方小造ハ地の六合を表と

○胴の厚三寸ハ高下平ハ三形と象と

○轉半ハ轉半ハ天柱ハ天の象と表し及首ハ

半月の形と換と○の糸捲ハ虚猪陸順

曲順三台ハ星ハ配一則一の糸と虚猪と云

二の糸と陸順と号し三の糸曲順と号し

○一の糸ハ壹越斷金平綱勝絶の四と兼

二乃糸ハ下無双綱鳥鐘黃鐘乃四と兼

三ハ糸ハ小鸞鐘盤涉神仙上無の四を備て

三筋ハ三四十二絃子と配當せりされハ其音色

奇絶なり根本ハ蛇皮線ハ勝て実ハ倭國の名器なり



琉球國樂器
蛇皮線の
模圖

崔沢蟻蝶

是より勝造城鳳門人

崔沢勝造

虎吉改

崔沢采吉

新町

崔沢勝鳳

崔沢勝造

勝次身改

崔沢庄吉

是より勝三言門人

崔沢豐助

崔沢彌市

崔沢綱熊

崔沢龜吉

是より龜吉

崔沢勝七

安次身改

崔沢芳次郎

是より勝次身改七門人

崔沢大吉

崔沢時造

天保十年時を夫と改

崔沢清七

膳在鷹門改

崔沢清六

崔沢馬之助

崔沢清左所

富改着を夫時
猪を郎改

崔沢伊八

善を改

崔沢勝六

是より下猪を門人

崔沢九藏

崔沢借八

崔沢松次郎

崔沢藤吉

是より伝吉文翁人

崔沢文三

崔沢彦次郎

崔沢又造

崔沢

文きん教

文翁碑

崔沢廣作

崔沢元三郎

是より文三門人

崔沢方次

崔沢喜市

是より松田喜市門人
喜市改

崔沢伊藏

崔沢清三郎

崔沢梅翁

二代目文龜門人
京市藤改

崔沢伊八

梯扇門人
京

崔沢寛次

是より初代寛次門人
倭七改二代目

崔沢寛次

八多衛改
三代目

崔沢儀八

崔沢福造

口戸

崔沢三

是より三代目寛次門人

崔沢寛次

四代目
文吾改

崔沢寛三

崔沢文吾

是より四代目寛次門人

崔沢文次

崔沢寛四

崔沢寛三

崔沢文次

是より二代目寛次門人

崔沢力二

崔沢喜代七

崔沢力二

力二門人
京公室遠改

崔沢力二

傳五身改
五代目政を大峠

竹澤彌七

先祖竹沢敏四郎門人
初代

竹沢宗七

是より初代弥七門人

竹沢弥七

初吉改
二代目

竹沢駒吉

是より二代目弥七門人

竹沢廣助

源吉改
初代之豊沢氏と改

竹沢友次

竹沢弥七

宗六改新所
三代目

竹沢弥七

力造改宗六又改衆目之
是より下新町弥七門人

竹沢濱右門

竹沢相馬

牌

竹沢宗六

百々郎改

竹沢權右門

竹沢龍造

竹沢弥三郎

甚造改
玉々々美分

竹沢扇造

是より下曾孫七門人

竹沢弥六

竹沢龜吉

竹沢弥市

竹沢力造

豐 沢 東市

是より初代豊沢廣助の人

豐 沢 源吉

豐 沢 廣助

吉松茂仙方又改
二代目之京新玉

豐 沢 濱右門

豐 沢 兵吉

豐 沢 廣助

源助改仙方又改
三代目之

豐 沢 権平

是より三代目廣助の人

豐 沢 源吉

豐 沢 廣七

豐 沢 廣造

豐 沢 富次

竹沢兵吉

是より玄吉門人
仲遠改

竹沢廣藏

○江戸

三徳系譜より一知里が一進考
後篇小記と

野沢八兵衛門人

○野沢八兵衛

表八改

崔沢三門人

○崔沢吾八

崔沢吾八門人

○野沢語

助 崔沢と野沢氏と改

崔沢勘五郎門人

○崔沢勘五郎

徳次郎改

野沢庄次郎門人

○竹本紋太夫

正造改庄次郎又改

○當時諸國浄瑠璃定芝居名代

京

早雲長太夫座

同

都万太夫座

同

岸治嘉太夫座

大阪 筑後芝居 同 堀江市之側

同 若太夫芝居 同 北新地芝居

江戸薩六座 江戸結城座

駿州駿府濱太夫座 播州豐政左門座

播州 勝之進座 播州三木常右門座

丹州 岩太夫座 丹州美加嘉平次座

淡州 源之丞座 淡州 六之丞座

同 久太夫座 同 六太夫座

同 傳次郎座 同 蛭子屋座

同 金太夫座

余と退る細考一後篇より一紀と

後序

撰此正統武淨瑠璃乃大景園此乃
小旅之目是正史正統傳之大事凡
二百有奇子星家之歷如夢如幻
一蘭の緒乃故一歷代世無度
事實を知らずあるを恥はく時細
に選述せし撰之少尊翁の家文に

言重西人、怨志、と暗表小娘を

得、世々如、始、淨瑠璃道の侍来

を見流、其を、得、是、淨、理、家、之、絵、者

流、及、其、道、執、之、人、の、本、草、と、永、世、不

朽、此、瑠、冊、也、因、之、工、言、を、添、此、冊、子、の

跋、と、は、い、ふ、の、用、也

吉田弘子嗣子。

正保生寅、壬子、壬子、日

相作堂、統

